

講演会あいさつ

会長 橋本 学

皆様，こんにちは．知球会会長の橋本です．講演会開会にあたり，ご挨拶申し上げます．先月末からの寒波により各地で大雪となり，心配いたしました，皆様ご参加いただきほっとしております．

ニュースでは JPCZ はもはや当たり前，極渦やブロッキング高気圧などという専門用語も聞こえるようになり，地球物理をやってきたものとしては，どこか面はゆい気分にもなります．とはいえ，昨夏の酷暑とあわせると，もはや地球はティッピングポイントを越えしまったのではないかと危惧しております．



余り大きなニュースになっていないようですが，欧州宇宙機関の観測により，南米の地磁気異常が拡大しているとのこと．磁北極の移動も継続していることから，地球磁場も変調を来しているのかもしれない．最後の地磁気逆転から 78 万年を経過しており，次の逆転への序章がはじまっているのかもしれない．折しも太陽活動の活発化しており，地球磁場にも注目をしていかなければいけません．

このような状況下で大事なことは，やはりモニタリングと基礎研究です．京都大学地球物理の仲間の多くは，このモニタリングと基礎研究の現場で奮闘しています．近年，世界的に困難な状況ではありますが，モニタリングと基礎研究は絶やしてはいけません．知球会として，現場で奮闘する仲間にもエールを送り続けていきたいと考えております．皆様もご協力よろしく願いいたします．

さて，本日の講演会では，ご退職予定の向川先生，新たに地球惑星専攻に加わられた准教授の 3 先生にご講演をお願いしました．さらに，昨年秋の叙勲で，尾池先生が瑞宝大綬章を受賞されました．これを記念して，先生にご講演をお願いしたところ，ご快諾を頂きました．活断層と京都の文化に関わるお話しを頂けるとうかがっております．最後に，ビデオ講演になりますが，今年度の修士論文賞受賞者 3 名の講演を予定しております．

皆様，どうぞ最後までお楽しみ下さい．

